



下関北高校だより

(令和5年7月20日発行)

山口県立下関北高等学校

〒759-5511 下関市豊北町滝部 1003 番地

TEL (083) 782-0023 FAX (083) 782-0183

高校生活の様子は下関北高校HPでも紹介しています。

<http://www.shimonosekikita-hysn21.jp>



6月末から続いた豪雨により、被害にあわれた方々には衷心よりお見舞いを申し上げます。本校も、JR山陰本線の長門市ー小串間の長期運転見合わせ、その他区間の運転取りやめにより、臨時休校としました。生徒が安心して登校し、学習やその他の活動ができるよう、一日も早い復旧を願っております。

さて、今号から、記事の一部を生徒に執筆してもらうことにしました。今回は、3年生男子生徒が「面接ガイダンス」について書いています。

■ 車いす体験を実施しました

6月12日(月) 2・3限、2年生の選択科目「生活と福祉」の授業において車いす体験実習を行いました。

まず、教室内で使用方法を学習した後、校舎の外に出て段差がある場所を移動したり、スロープを後ろ向きに下ったりしましたが、頭の中で理解したつもりであっても、慣れない車いすの操作に戸惑う場面も見られました。また、車いすに座った生徒の方も、互いの顔が見えない状態で動かしてもらう怖さを実感したようです。

生徒たちにとって、今回の車いす体験は、障害のある人や介助される人の立場に立って考え、行動することの大切さを知るとともに、バリアフリー社会の実現に向けて大切なことは何かを考えるよい機会となりました。



■ 1・2年生が職業理解ガイダンスで将来について考えました

6月13日(火) 6・7限、1・2年生対象に職業理解ガイダンスを実施しました。

県内外の大学、短大、専門学校から13人の講師の先生をお招きし、①IT・情報処理、②CG・ゲーム、③医療事務・診療情報管理士、④ホテル・ブライダル ⑤公務員、⑥美容・理容、⑦ファッション、⑧保育・幼児教育、⑨介護福祉・社会福祉、⑩スポーツ、⑪看護、⑫理学療法士・作業療法士の12の講座が実施されました。

生徒は興味のある講座を6限目と7限目にそれぞれ一つ選び、二つの講座を受講しました。各講座では、講師の方からパンフレットやプレゼンテーションソフト、動画等を使って、職業のやりがいや魅力、身に付けなければならない資格、そのためにはどのような勉強をしなければならないかなどについて詳しく説明を受け、生徒は熱心にメモをとっていました。

講師の先生方からも、「熱心に聞いてくれた」「質問にしっかり答えてくれたり、意見を言ってくれたりして、話しやすかった」「リーダーの生徒がよく動いてくれた」等、ガイダンスに取り組む姿勢を褒めていただきました。生徒にとって将来の職業を考える良い機会になりました。



■ スクールカウンセラーによる教育相談講演会を実施しました



6月15日(木)、本校スクールカウンセラーの 天辰 佳代子 先生を講師に、「ストレス対処法～動けるところを持ってみよう～」と題して、教育相談講演会を実施しました。

まず、「無理をせず、考え込まないようにするのも大事な心の動きだ」ということを伝えられた後、生徒たちは1週間を振り返って印象に残っている出来事を書き出し、その出来事が自分にとってどんな感じだったのかを、「普通」を「50」として0～100で得点化しました。1週間を振り返り、気持ちを書き出し、数値化するといった行為自体もストレス対処法の一つになるそうですが、「いやなことやつらいことがあっても、楽しいこともある日常生活を送っている」というふうに、一つの考えにとらわれず、自分の中に別の視点をもつようにしてほしいということと、本当に苦しいとき、つらいときは助けを求めることも大切であるということをお話されました。

生徒が自ら心を動かしてストレスを対処できるようになることを期待するとともに、学校も、生徒が苦しいときに相談できる信頼できる大人がいる場所であり続けたいと思います。



■ 高齢者の気持ちを疑似体験しました

6月22日(木)、地域探究の「保育・福祉」グループでは、下関市社会福祉協議会豊北支所の板垣さんと中野さんの御指導の下、生徒10名が高齢者疑似体験を行いました。

ひざやひじの屈曲が困難になるサポーター、手首・足首用の重りバンドと重り付きのベストを身に付けていくたびに、徐々に体が動かしくなくなりました。その後、前かがみ姿勢体験ベルトを装着すると腰が曲がり、前進するのもゆっくりとしかできなくなりました。さらに、視野狭窄等を体験できる視覚障害ゴーグルや聴覚の変化を体験できるイヤーマフを付け、実際に校舎内を移動してみたところ、杖を持ち、介助があったとしても、階段等の上り下りは怖さを感じたようです。



体の不自由さを感じるのは必ずしも高齢者とは限りませんが、超高齢社会と呼ばれる現在、今回の疑似体験を通して、高齢者の気持ちを知るだけでなく、高齢者をいたわり、周囲がどう介助したらよいかを考えていかなければならないことを学ぶことができました。

体の不自由さを感じるのは必ずしも高齢者とは限りませんが、超高齢社会と呼ばれる現在、今回の疑似体験を通して、高齢者の気持ちを知るだけでなく、高齢者をいたわり、周囲がどう介助したらよいかを考えていかなければならないことを学ぶことができました。

■ 2回目の面接ガイダンスを受けました(3年 M・K)

6月22日(木)の7限、私たち3年生を対象に2度目の面接ガイダンスがありました。講師は、前回同様、学校法人大原学園の森 正登先生です。

今回は、実際に面接室への入退室と自分の長所を述べるという実践練習をしました。その中で、私は、姿勢や手の位置、お辞儀の深さなどの動作に関するマナーがとても勉強になりました。緊張した状態で自分の動作を意識することは非常に難しいことなので、この時間は大変有意義なものになりました。また、長所を述べる際の文章の構成についても学びました。一番伝えたいことを初めに述べ、その理由や体験などを絡めて伝えることが大切だと教わりました。

これから3年生の多くは、進学や就職の際、面接を経験することになります。希望進路の実現に向けて、今回の面接ガイダンスの内容を活かしていきたいです。



- ・1つ1つの動作をしっかり止める!!
- ・自分の長所が何に活かせるのか